

序

近世に金銀山が発見され、多くの人が呼び寄せられた佐渡相川。

鉱山採掘や廻船業の隆盛によって、国内でも類をみない鉱山を中心とした大都市へと成長し、歴史を刻んでまいりました。その後、昭和時代の終焉とともに鉱山は休山しましたが、観光対象として鉱山は活かされ、今も地域社会の誇りとなっています。そして、海成段丘を巧みに利用して形成された町並みは、今も、鉱山町相川の独特なたたずまいを残しています。

佐渡市では、そうした相川の鉱山都市景観を守り、未来へと伝えるため、平成22年度から4カ年事業として、国の重要文化的景観の選定を目指した価値調査を続けてまいりました。

この度、これまでの調査成果を踏まえ、相川の鉱山都市景観の価値についてまとめた『佐渡相川の鉱山都市景観保存調査報告書』を刊行する運びとなりました。本報告書によって、佐渡相川のかげがえのない景観を守り育てる機運が一層高められることを願っています。佐渡市といたしましても、引き続き、相川の景観保全の取組に全力を尽くしてまいります。

調査の実施にあたって、多大のご理解とご協力をいただきました住民の皆様、調査指導をいただきました委員の皆様、玉稿をいただきました著者の皆様、調査にご尽力をいただきました(独)国立文化財機構 奈良文化財研究所、京都府立大学、東京大学、新潟大学の皆様に心から御礼申し上げます。

平成27年3月

佐渡市長 甲斐元也

例 言

1. 本書は、新潟県佐渡市相川市街地（鹿伏一下相川）一帯に所在する文化的景観（「佐渡相川の鉾山都市景観」）の保存調査報告書である。
2. 調査に係る資料は調査実施機関及び佐渡市世界遺産推進課で保管・管理している。
3. 保存調査は平成 22～25 年度に佐渡市世界遺産推進課が事業主体となり実施し、国宝重要文化財等保存整備費補助事業の事業採択を受けて実施した。
4. 相川各町の町名（大字）は、佐渡市合併時に「相川」が冠されることとなったが、本書では原則として省略した。
5. 挿図・図版に関する所蔵元・引用元等は巻末に一覧として記載した。なお、図版については各所蔵元からの許諾のもとに掲載している。
6. 引用文献は本文中に註（ ）として示し、文献名を巻末にまとめて掲載した。
7. 本書の編集は、若林篤男（佐渡市世界遺産推進課）がおこない、菊地淑人（独立行政法人 国立文化財機構奈良文化財研究所〈以下、奈良文化財研究所〉文化遺産部景観研究室特別研究員）及び恵谷浩子（同研究員）がこれを補佐した。
8. 本書の執筆分担は、第 1 章及び各分担項目の末尾に記載した。
9. 本書の編集及び挿図・表の作成に関しては、その一部を(有)不二出版へ委託し、また、十倉亜希、渡邊佳奈、御田智美（奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室）の協力を得た。
10. 巻頭図版の写真は、一部を除き杉本和樹（西大寺フォト）が撮影し、鎌倉綾（奈良文化財研究所企画調整部写真室）がこれを補佐した。
11. 「佐渡相川の鉾山都市景観全覧図」は、奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室監修のもと、北野陽子が作画した。
12. 英文目次は菊地淑人が作成、Edwards Walter（奈良文化財研究所 客員研究員）が校閲をおこなった。
13. 表紙デザインは野中優介がおこなった。

目 次

巻頭図版

序

例言

第1章 調査の目的と概要

1 節 調査の目的・経緯及び対象地域概要	2
1. 佐渡相川をとりまく現状と文化的景観調査	2
2. 調査の実施と調査対象範囲概要	3
2 節 調査体制及び報告書の構成	5
1. 調査体制	5
2. 報告書の構成	6
3 節 調査検討過程	9
1. 調査指導委員会における議論	9
2. 価値調査の過程	10
4 節 本書で使用する語	12

第2章 相川を育んだ自然的・文化的・社会的基盤

1 節 相川の自然的基盤	14
1. 佐渡島における相川の位置	14
2. 相川の地形的特質	14
3. 相川の気象条件の特質	16
4. 相川の基盤にある鉱脈	16
2 節 相川金銀山の鉱脈	19
3 節 相川の景観を育んだ植物	21
1. 相川地区の植物のあらまし	21
2. 相川地区の植生	22
3. 相川地区の植物保護	28
4. 相川地区の貴重な植物	30
5. 薬草園と植物	30
6. 金鉱山と植物	33
4 節 物流・往来・人口変動が生み出した相川	34
1. 鉱山都市相川に惹きつけられた人々	34
2. 相川を支えた物流	34
3. 人々の往来と文化の伝播	35
4. 人口変動にみる相川の盛衰	37
5 節 小結	38

第3章 鉾山都市相川の歴史と文化

1節 相川の形成史と社会像	40
1. 鉾山都市相川の誕生と変遷	40
2. 鉾山都市相川とその周辺地域の生活文化史	56
3. 相川をみつめるまなざしの変遷	80
2節 相川的生活文化と地域文化	92
1. 鉾山に由来する工芸技術	92
2. 鉾山都市相川の信仰	95
3節 小結	101

第4章 鉾山都市相川の土地利用と空間の関係性

1節 近世・近代における土地利用	104
1. はじめに	104
2. 近世期相川における土地利用	104
3. 近代期相川の景観復原資料	105
4. 明治期相川の景観復原とその分析	108
5. 現代の土地利用と景観	111
6. まとめ	114
2節 海成段丘部における水田開発と薪炭林利用	115
1. 海成段丘上の農地と水利	115
2. 下相川地区の水田開発	115
3. 鹿伏地区の水田開発	117
4. 薪炭林の利用	123
3節 鉾山・町場・村方の相互関係性	124
1. 鉾山・町場・村方の関係の特徴	124
2. 段丘崖の植生の差異	125
3. 金銀山と漁業の関係	127
4節 小結	130

第5章 鉾山都市相川の構造と変遷

1節 相川の都市形成と変遷	132
1. 上相川の形成と近世相川	132
2. 相川上町・下町の形成と変遷	136
3. 相川の近世都市化と寺社	173
2節 相川の都市構造	186
1. 相川の地形と都市構造	186
2. 街区の類型と街区構造	202
3. 相川の石文化と景観	239
3節 小結	246

第6章 相川に育まれた町並みと建物	
1節 町並みと家屋の現在	248
1. 伝統的家屋の残存状況	248
2. 町並みの形成と生活のうつりかわり	256
2節 伝統的家屋と寺社建造物	265
1. 伝統的家屋の特徴：地域性と町並みの特徴	265
2. 寺社建造物の特徴	295
3節 小結	306
第7章 佐渡相川の鉾山都市景観の本質的価値	
1節 自然・歴史・生活及び生業の特性	308
1. はじめに	308
2. 自然的特性	308
3. 歴史的特性	309
4. 生活・生業上の特性	310
2節 景観単位	311
3節 景観構成要素	313
4節 佐渡相川の鉾山都市景観の本質的価値	333
1. 鉾山都市景観としての相川	333
2. 佐渡相川の鉾山都市景観の本質的価値	333

註

参考文献

図版出典

英文目次